

HPV ワクチンについて

HPV とは

子宮頸がんの95%以上は、ヒトパピローマウイルス(Human Papillomavirus：以下、HPV)が子宮頸部に感染することが原因であることがわかっています。また、男性では肛門がんや陰茎がん、咽頭がん、尖圭コンジローマの原因になることが知られています。HPVはヒトにのみ感染することができるウイルスであり、ヒトの中に住み続けており、性的接触により感染します。HPVは、突然変異によって姿を変えていくことがないウイルスのため、ワクチンによって誘導された免疫で、変わることなく感染予防できる病原体です。

予防としての HPV ワクチン

日本においては2価・4価に続いて、9価 HPV ワクチン（シルガード®9 水性懸濁シリンジ）が発売され、子宮頸がんをはじめとするがんの原因となる高リスク型 HPV のうち7タイプと尖圭コンジローマの原因となる低リスク型の2タイプの感染を予防することが出来ます。

このワクチンは、既に感染している HPV に関してはウイルスを消失させる治療効果はありません。従って、HPV 持続感染の治療、HPV に起因する子宮頸部異形成、子宮頸がんの治療には用いられません。性活動開始前に接種するのが最も効果があるとされています。

日本産科婦人科学会では10-14歳を最も推奨、15-26歳を次に推奨、27-45歳の女性もワクチン対象とし、有効性が証明されています。46歳以上の女性も接種は可能ですが、有効性のデータはありません。

再感染の防止効果

感染している HPV が一度消失したあと（子宮頸部円錐切除後）の再感染を防ぐことも可能なため、初交前の接種に比べ有効性は減少するものの、初交前だけでなく、初交後も接種が推奨されています。

子宮頸がん検診について

HPV ワクチンを積極的に接種している国では、ワクチン接種を受けた世代の女性における子宮頸がんの発生数がおよそ90%減少しています。しかし、ワクチンはすべてのハイリスク型 HPV の感染を予防できるわけではないため、早期発見・早期治療のために子宮頸がん検診も定期的に受診し、子宮頸がんに対する予防効果を高めることが大切です。

当院におけるシルガード®9 水性懸濁シリンジ接種について (9 価ワクチン)

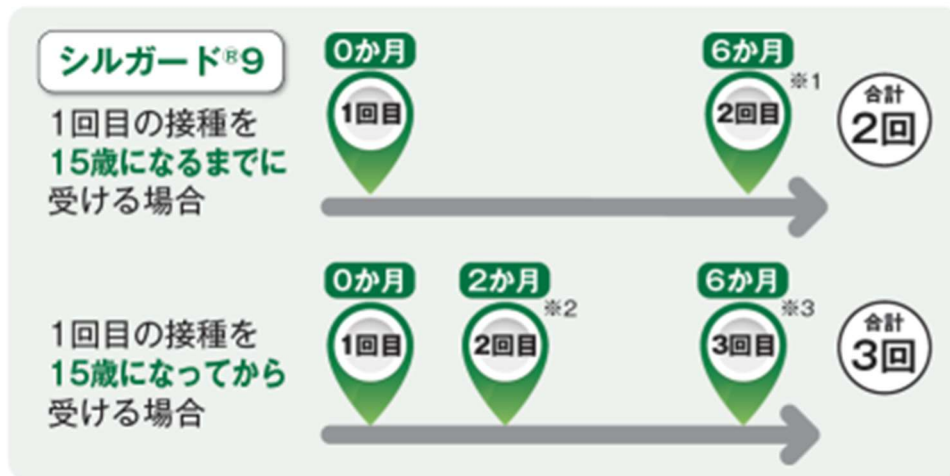
◆接種対象者

9 歳以上

* 18 歳までは保護者同伴が必要です。



◆接種スケジュール



※1：1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3：2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

◆副反応について

可能性のある重大な副反応として、過敏症反応（アナフィラキシー、気管支痙攣、蕁麻疹等）、ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）が報告されていますが、発生数そのものが少ないため、その発生頻度は不明です。頻度の高い副反応としては、接種後5日以内の注射部位の疼痛が約90%、その他には、発熱、局所症状として注射部位のそう痒感(痒み)・出血・熱感・腫瘍・知覚消失、精神神経症状としての頭痛・感覚鈍麻、消化器症状としての悪心等が1-10%未満に認められています。ワクチン接種後に注射による心因性反応を含む血管迷走神経反射として失神が現れることがあるため、失神による転倒を避けるため接種後30分程度は待合室などで経過を見ることが必要です。

◆接種までの流れ

産婦人科外来で問診後、中央処置室で接種

◆接種予約枠

毎週金曜日 午後2時～午後3時

◆当院での費用

《公費助成接種》

今年度12～16歳になる方（小学校6年生～高校1年生相当）

原則自己負担なし

* 男性の助成については市町村で異なります。

《任意接種（自費）》

1回につき31,350円（3回接種の場合は31,350円×3回＝94,050円）

* 1997年4月2日～2009年4月1日生まれの女性で、2022年4月～2025年3月31日までにHPVワクチンを1回以上接種した方の公費による接種は 2026年3月31日までです。

◆接種に関する注意点

ワクチン接種の当日は、ご記入いただいた予診票を医師が確認し、問題ないことを確認してから接種を行います。ワクチンは筋肉内注射による接種です。接種後30分は患者様の状態を把握するため、病院内の待合室でお待ちいただきます。特に症状を認めなければ、終了となります。初回の接種を行った際に次回のワクチン接種の予約が可能です。ワクチン接種による副反応は説明書に記載されておりますので、記載されているような症状が強く出現した場合などには当科までお問い合わせください。

2回目および3回目の接種の流れは1回目のワクチン接種と同様です。長期にわたる予約が必要となりますので、予め日程をよく調整いただけましたら幸いです。

別のワクチンを接種した場合も体調に問題なければ接種間隔をあける必要はありません。

◆予約

産婦人科窓口、電話での予約が可能です。

027-221-8165（病院代表）から産婦人科外来へ

月曜～金曜日 午前8時30分～午後17時

RS ウイルスワクチンについて

RS ウイルスとは

RS ウイルスは年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時が最も重症化しやすいといわれており、特に生後6ヶ月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも一度は感染する、とされています。

妊婦中に接種するRS ウイルスワクチン

当院で接種可能なアブリスボ[®]筋注用は、妊婦さんに接種することで妊婦さん自身がRS ウイルスに感染するリスクを減らすとともに赤ちゃんを守ることを目的としています。

このワクチンは、母体で生成された抗体が胎児に移行することで、生まれてくる赤ちゃんをRS ウイルスから保護します。RS ウイルスは、特に乳幼児にとって重篤な呼吸器感染症を引き起こす可能性があり、特効薬がないため、予防が重要です。

ワクチンに期待される効果

承認前の試験では、妊婦さんにアブリスボ[®]を接種することで、生後90日以内の乳児における重症下気道疾患（LRTI）のリスクが81.8%減少、生後180日以内では69.4%減少と、非常に高い予防効果が示されました。

また、RS ウイルスによる下気道疾患全体の発症率も、生後90日で57.1%減少、生後180日で51.3%減少しています。

当院におけるアブリスボ[®]筋注用について

◆接種対象者・接種回数

妊娠24週～36週6日の妊婦、1回のみ

ただし、妊娠28～36週に接種した場合に有効性がより高い傾向にあることが報告されています。

*助成対象となるのは妊娠28週～36週6日の妊婦さんです。

*60歳以上におけるRS ウイルスによる感染症の予防投与については健康管理センターでの接種となります。



◆副反応について

アブリスボの主な副作用は、他のワクチンと同様に軽度～中等度が大部分を占めます。注射部位の痛み（約41%）、発赤（7%）、腫れ（6%）、頭痛（31%）、筋肉痛（27%）、倦怠感（46%）、発熱（3%）、悪心（20%）、関節痛（12%）、下痢（11%）これらの副反応は多くが一過性で、数日以内に自然消失することが一般的です。重篤な副反応（ショック、アナフィラキシー）は極めて稀ですが、接種後は一定時間観察が推奨されます。

妊婦さんへの接種による早産や新生児奇形のリスク増加は、臨床試験・コホート研究で認められていません。新生児集中治療室（NICU）入院率や新生児黄疸、低血糖、敗血症などの発生率もプラセボ群と同等でした。

◆接種までの流れ

産婦人科で妊婦健診・問診後、中央処置室で接種

◆接種予約枠

妊婦健診と同じ日に接種可能です。

◆当院での費用

《公費助成定期接種》

前橋市：無料（予診票が必要です。）

*助成については市町村で異なります。

◆接種に関する注意点

ワクチン接種の当日は、妊婦健診後にご記入いただいた予診票を医師が確認し、問題ないことを確認してから接種を行います。ワクチンは筋肉内注射による接種です。接種後30分は患者様の状態を把握するため、病院内の待合室でお待ちいただきます。特に症状を認めなければ、終了となります。ワクチン接種による副反応は説明書に記載されておりますので、記載されているような症状が強く出現した場合などには当科までお問い合わせください。

別のワクチンを接種した場合も体調に問題なければ接種間隔をあける必要はありません。

◆予約

妊婦健診時に予約が可能です。